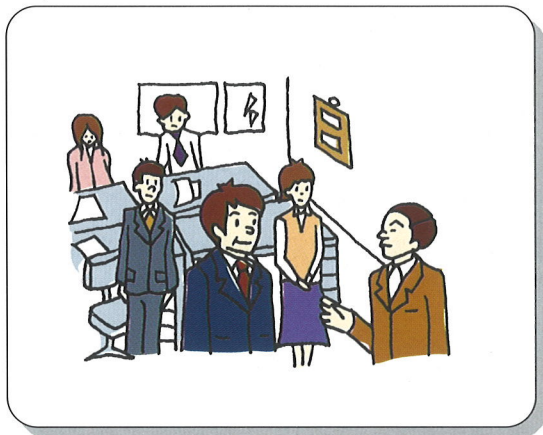


# 3

## 男女を対等な関係で描いていますか？

### 3-1 男性がいつもリーダーでしょうか？

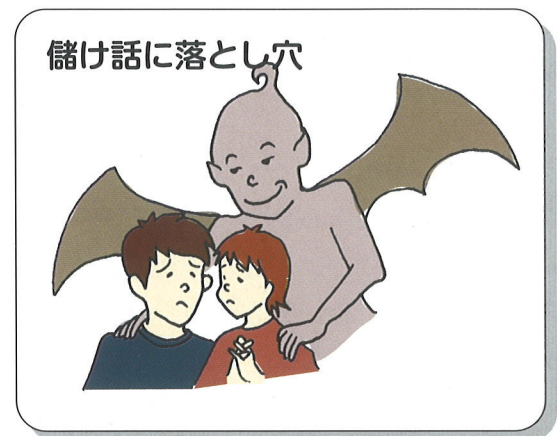
常に、男性を中心的存在、指導者的な立場、守る側として、女性を周辺の存在、従属者的な立場、守られる側として描かず、男女は対等で、地位や立場も様々であることを示す表現を心がけましょう。



性別と立場、関係を結びつけた表現にしないで、多様な表現を工夫しましょう。

### 3-2 被害者はいつも女性でしょうか？

常に強者を男性、弱者を女性で描いたり、常に加害者を男性、被害者を女性で表現したりするのではなく、性別と結びつけない様々な表現で描くよう心がけましょう。



加害者は男性、被害者は女性とワンパターンで描くのではなく、内容に応じて違った表現を工夫してみましょう。



## 性別と上下などの関係を 結びつけないようにしましょう。

広報では、男女を対等なものとして表現することが求められています。男女に上下をつける意図はなくても、男性優位の固定観念が根底にあるかのような表現が見受けられます。慣習的に続けてきた表現も漫然とは用いず、陥りがちな問題を意識し、男女対等の観点から見直す態度が必要です。

性別と上下などの関係を安易に結びつけることは、固定的なイメージを一層定着させてしまうことにもなります。

### 3-1 「主従、上下、優劣」の関係

広報における登場人物の役柄が、いつも男性が優位で、女性が劣位になっていないか改めて見直す必要があります。

例えば、常に男性がリーダー、女性はアシスタントだったり、いつも男性を中心・先頭・前面、女性を周辺・後尾・後背に配したり、男性が教え・命じ、女性が問い・従うという関係にばかりしていないか注意すべきです。

文章表現についても、女性が男性より劣っていることを前提とする表現、例えば、「男性顔負けの活躍」、「女性でも簡単に分かる」といった表現は、用いる必要があるのか考えてみましょう。また、制度の解説などで用いられる「Q & A」の手法では、質問側が女性、回答側が男性となっている例が多く見受けられますが、ときには違うパターンにすることを考えてみましょう。

### 3-2 「強弱、善悪」の関係

抽象的な事例を表現するときなど、分かりやすさを求めるあまり、特質と性格を安易に結びつけていないかが注意する必要があります。

例えば、常に、強者・加害者・悪人・守護者を男性で、弱者・被害者・善人・被保護者を女性で表したり、いつも、能動性・たくましさを男性で、受動性・繊細さを女性で表したりすることは注意すべきです。